

弘化4年（1847）～嘉永5年（1852）
サツキ開花株の前に美人が立つ図 ホトトギスが飛ぶ



『皁月』 一陽斎豊国（三代）三枚の内の一枚

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人／小笠原 誓 発行所／名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東桜2-18-13 tel.052-931-8701
<http://nagoyaengei.co.jp/>

'25 5

名古屋園芸

初夏を楽しもう



＝花の講座のご案内＝

講座番号8『夏の和モダンアレンジメント』
6月21日（土） 13:30～14:30

枝物や葉物をあしらった涼しげなアレンジをリビングに。和テイストを取り入れたモダンなアレンジを作ってみませんか。



＊材料費：4,400円（税込）
＊講習費：1,100円（税込）
＊講師：仲神 健一

講座番号36『アサガオを育てる』
6月4日（水） 13:30～14:30

誰もが一度は育てた事のある朝顔ですが、実は大人が夏中楽しめる、奥深い魅力を持つ植物！今年の夏を朝顔で存分に楽しむ方法をたっぷりとお話します。



＊材料費：3,300円（税込）
＊講習費：1,100円（税込）
＊講師：小笠原 誓

◇お申し込みは
花の講座専用電話 TEL：052-937-3391
受付時間 月～金曜日 10：00～17：00
Webからもお申込みできます！

名古屋園芸 検索

こちらからもどうぞ →



5月のおすすめ「トルコキキョウ」



爽やかトルコキキョウアレンジメント
¥5,500（税込）

また、花持ちが比較的良好いため、おうちのインテリアにも長く楽しめます。その美しさと気品ある姿から、ギフトとしても、自宅用としても大変おすすめです。

この5月は、ぜひ色とりどりのトルコキキョウを暮らしに取り入れてみませんか？



トルコキキョウの華やかブーケ ¥5,500（税込）

information

ギボウシ コレクション

日本の山間地に自生している『ギボウシ』。江戸時代に変異個体が園芸品種として固定され、日本から海外に渡り更なる品種改良の上、多くの品種が日本へ帰ってきました。その個性豊かな美しい草姿で、日陰を彩るオーナメンタルプランツとしても人気があります。

葉のサイズや色、斑の入り方、花の咲き方など、バリエーションが豊富な『ギボウシ』。名古屋園芸のバイヤーが厳選したおすすめ品種を集めた『ギボウシ コレクション』を、5月17日から6月8日まで開催予定です。展示と即売も行いますので、ぜひお気に入りを探してみてください。ギボウシの大きな葉が風になびく様子は、暑い夏でも涼しさを感じさせてくれます。



『躑躅花図集』

著者、製作年は不明ながら、江戸中期の図譜と思われる。
18面からなり、全45種のツツジの図が品種名と共に描かれている。

花の博物館 第352回

『躑躅花図集』
元禄時代は躑躅（つつじ）の時代

小笠原 誓

江戸に幕府ができると、田園地帯であった江戸は建設ラッシュがおきます。大名や武家は上屋敷、中屋敷、下屋敷を造り、神社仏閣が建てられます。これらの多くは広大な庭を持ち、江戸は世界に冠たる庭園都市へと変貌していきます。広い庭園を造るためにまず庭木や花木の需要が高まり、これらを生産する農場や管理する植木職人の住まいなどが江戸近郊に造られました。その中で一番大きな生産基地になったのが巣鴨染井村（東京都豊島区染井）でした。中でも伊藤伊兵衛家は頭角をあらわし代々伊兵衛を継ぎ、江戸時代の園芸に大きく関わってきました。三代目伊藤伊兵衛三之丞は、ツツジに目をつけその仕掛人となりました。江戸一帯の開東ローム層はツツジの栽培に適した土質で、伊兵衛はここに注目し、遠くは薩摩のキリシマツツジや上方で作られた名品種を収集し増殖します。さらに「錦繡枕」、「花壇地錦抄」など多くの園芸書を著作し園芸の普及にも努めてきました。こうして元禄時代はツツジの時代といわれるようになりました。

ニチニチソウもはじまります

夏の定番、人気のニチニチソウ。これまでは6月中旬から本格的に販売が始まっていましたが、今年はゴールデンウィーク明けの5月中旬から名古屋園芸でも販売が開始される見込みです。驚くことに、4月前半には市場での出荷が始まっています。

春の代名詞ともいえるゼラニウムも、今年は1月から出荷が開始され、名古屋園芸では3月から販売が始まり、4月前半にはおすすめの生産者によるゼラニウムの出荷が終了するという速さでした。

5月から始まる夏の花ですが、販売期間は9月までの5か月間にも及び、春や秋の花の販売期間は短縮されています。春から初夏の花、ペチュニアも4月前半から5月前半までの販売という短さです。園芸店に並ぶ花々からも温暖化の影響を感じ取ることができそうです。

それでも夏の花を楽しむ方法はあります。ニチニチソウは栽培環境の良い5月中旬から6月中旬頃までに早めに植え込むのがおすすめです。本格的な暑さが来る前に根を張らせることで、丈夫に育てることができます。

奈良の育種家・北島園芸さんが手掛ける品種も5月中旬から販売が始まる予定です。ニチニチソウの育種において日本一と言われる生産者で、オリジナル品種は30種類以上もあります。また、パンジーで有名なサトウ園芸さんのニチニチソウも入荷予定ですので、楽しみにしていってくださいね。



北島園芸さんのニチニチソウ
メルモとシラユキヒメを使った寄せ植え